

美人なダイコンをつくる

栽培のポイント

●作土が深く、排水性と保水性が両立できた圃場！

肌がきれいで良質のダイコンをつくるのは、発根の邪魔をしない土壌の準備が必要です。完熟堆肥の利用が理想的。かなわぬ場合は、バクヤーゼKを播種 30 日前までに利用して、未熟有機物の分解を済ませておきましょう。

●最終間引き後の追肥が、ス入りのない緻密な肥大を実現！

ダイコンの根部は表皮側から実が詰まってきます。ス入りは生育後半の養分不足と日照不足で発生しやすくなります。肥料が切れぬような肥培管理が大切です。また、光合成を促進させるリン酸の肥効が決め手です。(MリンPKが効いたダイコンは地上部の葉はやや小ぶりになります。根はしっかり肥大します)



チッ素過多では葉が大きくなる一方で、肝心の実(根)が太らない。リン酸を効かせていると、小さな葉でも光合成バッチリ！実が詰まり、太ります。

左：チッ素過多ダイコン
右：Mリンダイコン

ダイコンの施肥提案 (1 a = 30 坪)

肥料名	元肥	追肥① 最終間引き後	追肥② 収穫 30 日前
MリンPK	3 kg	3 kg	2 kg
バクヤーゼK	30 kg		
NK化成	4 kg	4 kg	



バクヤーゼKは播種 20~30 日前に施用してください

実の肥大期にMリンPKで、細胞をしめて耐病性を強化しよう！

ダイコンはホウ素欠乏が出やすい

ホウ素が欠乏するとダイコンの肌がガサガサになります。また、土壌がアルカリ側になると発生しやすくなりますので、土づくりの際は弱酸性側のpH にしてください。また、植物体内での動きが鈍いため、生育途中のリーフアップAの葉面散布も予防効果が大きいです。

ダイコンにスを入れないために

スが入るのは生育後半の養分・光合成不足で炭水化物が十分に作られないためです。光合成をしっかりとさせるため、リン酸を効かせることが大切です。

